(120) 埼玉県秩父の二子山

参考文献（１）を手引きに、方解石があるという、埼玉と群馬の県境にある二子山の方解石鉱山跡に探査に出かけた。現在では、栃木県の小山からは、北関東道が利用できるので、便利が良い。車で、２時間ほどで、現地の駐車場まで行き着けた。双子山の南側登山口から尾根である股峠付近まで登山道を進んだ。結構なハイキング道である。鉱山跡を確認した。鉱山跡下には多量のズリがあり、方解石の小さい単結晶の採集は現在でも容易である。時折大きな単結晶もある。

鉱山跡は、岸壁の斜面が谷のように掘り開らかれており、行き止まりは大きな堀跡となって、頭上には空がある。両側の岩盤には苔がむしているが、顔を近づけてみると、方解石の鉱脈であることが確認できる。脈幅は数ｍもある。垂直に上方に伸びている。至る箇所で太陽光がきらきらと反射して輝いている。方解石の露頭鉱脈の観察場所として、必見である。

図１，図２には、現在ある詳細な登山道が記されていないので、現地を訪れるときには、本探査記、参考文献（１）とともに、市販されている二子山の登山案内書があると申し分ない。

現地への経路は次の通りである。関越道を花園ＩＣで出る。１４０号線に入り、一路、秩父を目指す。秩父中心付近で、２９９号線に入り、群馬県境を目指して西進していくことになる。が、１４０号から２９９号に入るには、いろいろな経路がある。道路地図か、カーナビを利用すればよかろう。とにかく２９９号に入り、西行して行く。次第に道路は峠道のようになってくる。県境に近づくと、標高６２０ｍ当たりで、道路は大きく左に曲がっている。曲がり角には、忽然として、１件の民宿が出現する。曲がって直ぐ、道路の右に側道がある。これに入ることになる。が、速度を出しすぎると難しい。減速しながら左折をし、側道をしっかりと確認して、右折するようにしよう。直ぐに、道路左手に、二子山登山口がある。車は、もう少し先に、駐車させるのに十分な広いところがあるので、そこに止めると良い。二子山への登山者が駐車をしている場所でもある。

著者は、Ｐ点の所から登り上がった。股峠の所までは約１時間かかった。が実は、この股峠に行き着くには、北側からの登山口もある。その登山口までは、駐車をした林道を、先に進んでいけば良い。林道は舗装され、しっかりとした道である。山を大きく迂回して、北側に出る。林道の左側に登山口の案内板が立っており、近くに駐車スペースもある。北側の登山口からだと、徒歩５分～１０分で股峠である。こちらを選ぶのも悪くはない。

探査日　　２０１３年５月

図１　国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。文字「二子山」の右下の赤丸当たりが、確認した鉱山跡。鉱山跡は、登山道に隣接している。が、地形図には、あまり詳細に登山道は記されていないので、その登山道は記されていない。二子山の登山案内書を参考にした方がよい。Ｐは車の駐車場所。

図２　図１の拡大図。仁平沢の上流部分で、２９９号は大きく左へカーブしている。カーブした先で、右側の側道に入る（写真１を参照）。直ぐに二子山登山口である。Ｐ点当たりに車を置けよう。股峠までは、沢に沿って標高差約３００ｍの登りとなる。１時間から１時間半かかろう。途中当たりから沢に白い転石が目立つようになる。石灰石である。偶に方解石も含んでいるものもある。股峠近傍の黄緑色丸が坑口跡、茶色のベタがズリ。坑口跡には、ロウソク岩（図中の黒丸）への登山道の途中で、右側となるズリ斜面を登り切ることになる。坑口跡は、坑口跡前にテラスがあるので、下からは全く見えない。直前まで行かないと、視認できない。坑口跡へは、股峠の少し上から、山を横にトラバースして行くのもよいであろう。この方が楽である。ただし、あまり登りすぎてのトラバースだと、断崖絶壁の上に出てしまう。図中に黒線分でこのトラバース位置を記している。股峠には、北側からの林道からならば、短時間で登ることができる。

鉱山跡写真

写真１　２９９号の標高６２０ｍのこのところで、右側の側道に入る。この写真の少し後ろに、民宿がある。右へ入ると直ぐに登山口である。この側道に入るのをミスすると、先はカーブが続いており、遠く、県境にある志賀坂トンネル入口まで、Ｕターンは難しそうである。

写真２　２９９号から分かれて数十ｍ進んだ当たり。右側の山道が登山道入口。

写真３　登山道脇の沢の１つ。大半は落ち葉に埋もれているが、白色、灰色の転石が幾つも頭を出している。石灰石である。

写真４　股峠。馬の鞍似である。左右が、西岳と東岳。前後が北側登山道と南側登山道。

写真５　坑口跡の入口。下のズリからは、これは全く見えない。岸壁の真下まで登り上がってようやく見られる。奥は広い空間となっており、両側の岸壁には幅数ｍ以上の方解石の露頭鉱脈が垂直に伸びている。

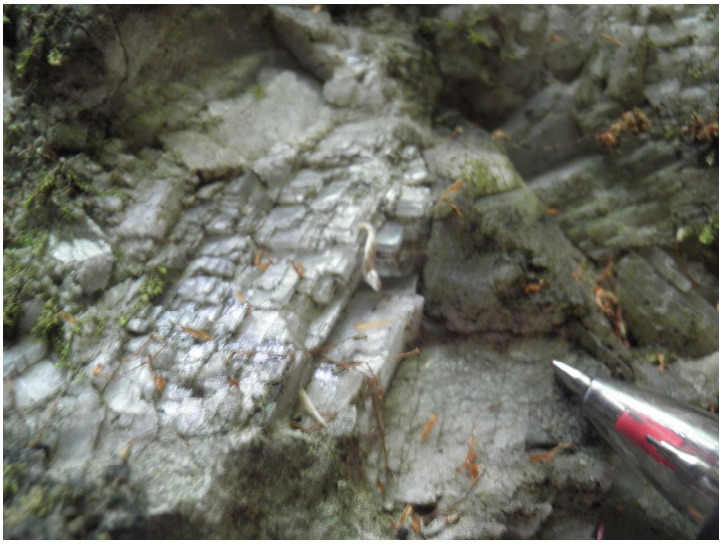

写真６　接写した、露頭方解石鉱脈の一部分。方解石らしい劈開面がよくわかる。

写真７　天気は申し分なく、時間と余力があったので、西岳山頂を目指した。指導標を支えている岩石は石灰石である。後方の遠方、北西方向に、緑の中に広大な白い領域が見えた。秩父太平洋セメントの石灰石露天掘り鉱山である。

二子山の山頂全体は石灰岩で、できている[1]。

採集鉱物写真

大小、いくつも採集したが、ありふれた標本である。それにつき未掲載。

参考文献

（１）「地球の鉱物　コレクションーインフィールド項」、ＤｅＡＧＯＳＴＩＮＩ、２００８年～２０１２年。